

職能団体の会員になることとは？

富田 博信

公益社団法人日本診療放射線技師会 副会長

はじめに、新型コロナウイルス感染症に対応されている会員各位に敬意を表します。

今回の巻頭言では、「職能団体の役割と、その会員になることとは？」について、改めて考えてみたいと思います。一般的に職能団体とは、専門的資格や技術・知識を持つ専門職者らが、その専門性の維持・向上と、専門職としての待遇や利益の確保・改善を図るとともに、専門性を生かした社会貢献活動を行うための組織ということでは理解されていると思います。では、職能団体に所属することの意味についてはいかがでしょうか？ いくつか考えられますが、専門職としての仕事や立場を守るため、技術・知識を継続的に学習することにより、専門職として社会貢献を果たすためなどがあると思います。もちろん、会員個人にとっても多くのメリットがあることが望ましく、それを求めて職能団体に所属するという考え方もあると思います。一方、多くの診療放射線技師が診療放射線技師会（技師会）に入会し、研修会や講習会などの生涯学習に取り組むことで診療放射線技師全体の質を高め、一定水準以上に保つことができると思います。これにより、診療放射線技師が社会から信頼され、長い目でみると自身の身分や給与を守ることもつながっていくのではないかと考えております。



また職能団体として、病院施設などの現場で起きている問題点や改善点、現状報告などを、社会に対して提起することも重要な役割だと思います。具体的には、行政への働き掛けや、他の関連団体・職能団体との連携・協業、および地域住民への関連情報の共有などが挙げられ、これらは非常に重要な役割の一つです。行政へは、個人や所属施設からの個別の要請では困難なケースも多いと思いますが、職能団体からの申し入れは専門家の総意として捉えられ、耳を傾けていただけることも多くあります。直近では、厚生労働省において「新型コロナウイルス感染症の対応を踏まえたワクチン接種・検体採取の担い手を確保するための対応の在り方等に関する検討会」が、8月23日および8月31日に開催されました。検討会には、本会を含めた9職能団体が出席しさまざまな議論がなされ、9月2日に最終報告書が取りまとめられました。このように、行政から意見を求められ、診療放射線技師の総意として発言する機会を得ることができるのです。さらにその“声”に説得力を持たせるものは行動力と数の力が大きく、「何に取り組んだか」と、「組織力（会員数）」が重要であると思います。技師会に所属し、その活動に積極的に参加することが重要であると思いますが、家庭の事情や業務が忙しく活動に加われない方でも、技師会に所属していただくだけで、その活動に意味を持たせる効果は十分に大きいのです。

われわれは、安心・安全な医療を提供することはもちろんですが、技師会は働く仲間を守り、質を高め、われわれの仕事が社会に必要であるということを認識してもらうために、日夜事業を展開しております。1人でも多く入会いただけますよう（会員増加による組織力の強化を念頭に…）、皆さまのご支援、ご協力をお願いできればと思います。本会執行部は会員数4万人を目標として、一丸となって活動してまいりたいと思います。